中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価（平成30年度）

中土佐町基礎データ

合併状況：平成18年1月に1町1村が合併
人口：6，896人（平成29年11月現在）
面積：193．28平方キロメートル

地域の交通の目指す姿（事業実施の目的・必要性）

別添1－2参照

中土佐町における主な公共交通概要

○鉄道：JR四国（土讃線）
○バス
（幹線）
①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を経由する民間事業路線
②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経由する民間事業路線
（フィーダー）
・平成30年度地域内フィーダー系統として町内を運行しているコミュニティバスは、全10系統
久礼地区では、土佐久礼駅を起点に7系統が運行
大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3系統が運行している。
・フィーダー系統
⑪萩原循環線
⑫鎌田線
⑬黒石野線
⑭黒石野線（楠の川）
⑮松の川川崎線
⑯大坂線
⑰長沢線
⑱下ル川線
⑲萩中線
⑳高樋線

中土佐町の公共交通ネットワーク図

中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価（平成30年度）

協議会の構成員

高知県　中土佐町　町内利用者代表
高知高陵交通(株)　(株)四万十交通　(有)中土佐ハイヤー
(社)高知県バス協会　高知運輸支局　須崎警察署

前年度の事業評価における課題

新たな利用者の掘り起こしに向けた利便性向上策はもちろんのこと、福祉部門との連携を強化し、引き続き利用者及び沿線地域住民とのヒアリング等を通じてコミュニティバスを知ってもらい一度体験していただく広報活動にも力を入れ、各路線が持続して運行できるよう取り組む。

著しく利用者数が少ない状況が続き、利用者底上げの期待ができない路線については、運行形態の大幅な変更、及び廃止を検討する必要がある。

定量的な目標・効果

（目標）
- ・系統⑪⑫⑮⑯⑰は、1日当たりの利用者数を8人以上
- ・系統⑬は、1日当たりの利用者数を2人以上
- ・系統⑭は、1日当たりの利用者数を12人以上
- ・系統⑱は、1日当たりの利用者数を25人以上
- ・系統⑲は、1日当たりの利用者数を20人以上
- ・系統⑳は、1日当たりの利用者数を15人以上

（効果）
・各系統の運行を維持することで、中山間地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。
また、幹線系統の路線バスと連携することにより、広域的な移動における利便性が向上する。

フィーダー系統図

中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価（平成30年度）

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

・路線再編について、路線バス及びコミュニティバス沿線地域の住民との説明会及び意見交換会を行った。
・コミュニティバスの利用者を対象としたアンケートを行った。
・地域公共交通会議を平成30年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編について協議を行った。

自己評価

事業実施の適切性

・平成28年10月1日運行からの各路線再編を実施後、利用者及びバス路線沿線地域の住民との意見交換会及び運行事業者との協議を行い、バス路線については一定の整備を図ることができた。また、JR及び幹線系統との接続ダイヤを見直し、利便性の向上を図ることができた。
・全ての系統が目標値を下回っているものの、利用者の掘り起こしを行ったことで前年度に比べ利用者数が増加した。また、高齢者の買い物・通院等への移動手段として機能した。

「定量的な目標・効果」の達成状況

・系統　⑪萩原循環線、⑫鎌田線、⑬黒石野線、⑤松の川川崎線、⑥大坂線、⑰長沢線
　：年間を通して１日当たりの利用者数平均が目標値に対し50％に達しておらず著しく利用が少ない状況にある。

・系統　⑱下ル川線、⑳高樋線
　：年間を通して１日当たりの利用者数平均が目標値に達していないが、目標値に対し50％以上の利用率を確保できている。

・系統　⑭黒石野線（楠の川）、⑲萩中線
　：年間を通して１日当たりの利用者数平均が目標値に達していないが、目標値に対し70％以上の利用率を確保できている。

・全ての系統において目標値に達しておらず、久礼地区を運行するコミュニティバスに関しては、１系統を除いてすべての系統が1運行当たりの利用者数1．０人を下回る結果となっている。移動手段の少ない高齢者にとっては、日常の生活交通手段として定着しているものの、著しく利用の少ない系統については、運行形態の見直しや休廃止を検討していく必要がある。

中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価（平成30年度）

今後の事業に向けた改善点

地域ヒアリングを実施しコミュニティバスの再編を行ったことにより、公共交通空白地区が増えたものの真に公共交通を必要とする住民に対して移動手段の確保ができたが、依然として移動手段を持たない住民がいる公共交通空白地区も存在しており、今後も住民の生活交通手段をいかに確保するかが課題となっている。

現在、まちづくりと連携した地域公共交通網形成計画の策定に取り組んでいる。公共交通の利用促進に向けた広報や地域ヒアリング等を引き続き実施し、高齢化が進む本町の移動手段を確保し、安心安全な地域生活を守る地域公共交通を目指す。

その他PRポイント

・利用が低迷している久礼地区において、新しい集客施設として「道の駅なかとさ」がオープンしたこともあり、全体的な再編に向けた取り組みを進めている。平成30年10月運行分より再編した路線体系での運行を開始している。
・健康福祉課と連携し、地区の集まりにおいてコミュニティバスを活用したり、日常生活の中で利用するための情報提供と説明を行っている。